

施設概要

(令和5年4月1日現在)

施設名 青少年女性センター (福祉センター内)		開館時間 午前9時～午後10時	
所在地	〒270-1415 白井市清戸766-1	併設施設	白井市老人福祉センター 白井市就労支援継続B型事業所 みのり
TEL	047-492-2022	FAX	047-492-2021
メール	fukushi-center@bz04.plala.or.jp		
休館日	日曜日・国民の祝日 12月29日～翌年1月3日	駐車場	60台
職員構成 R5年4月現在	センター長1名 事務職1名 (非)事務職2名 用務員1名 合計5名 (老人福祉センター常務兼務)		
貸出施設	1時間あたりの施設使用料(社会教育認定団体は2分の1)		
	施設名	定員	9:00～21:00 付帯設備
	研修室	36名	250円 ビデオ・テレビ・ピアノ 机12台・椅子36脚
	会議室	36名	250円 机12台・椅子36脚
	調理室	36名	720円 調理台6台・椅子36脚
	レクリエーション ホール	139名	970円 バトミントンコート2面 バレーボール1面・卓球台
貸し出し 可能備品			

令和4年度 公民館等団体別利用状況 (青少年女性センター)

種別	青少年		成人		女性		高齢者		その他		個人		合計	
月	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4	7	58	43	377	18	136	8	62	9	134	8	25	93	792
5	4	65	40	345	12	77	7	65	20	302	7	13	90	867
6	7	137	45	428	17	104	6	52	27	427	7	7	109	1,155
7	8	74	53	484	18	115	9	73	20	235	12	96	120	1,077
8	9	60	47	420	11	75	6	33	17	192	7	19	97	799
9	9	85	42	392	16	113	10	88	26	544	2	5	105	1,227
10	9	112	48	445	20	138	10	86	25	356	22	22	134	1,159
11	4	36	43	455	19	127	9	80	26	307	22	23	123	1,028
12	6	68	40	403	20	150	9	78	25	271	12	18	112	988
1	5	48	40	354	18	133	10	98	7	71	13	20	93	724
2	5	40	45	464	18	130	11	93	10	99	18	19	107	845
3	16	287	62	585	22	197	12	105	14	152	22	38	148	1,364
合計	89	1,070	548	5,152	209	1,495	107	913	226	3,090	152	305	1,331	12,025

令和4年度部屋別利用件数・利用人数

部屋名	利用件数(件)	利用人数(人)	年間利用率(%)
研修室	428	2,592	26
会議室	214	1,506	15
調理室	18	127	2
レクリエーションホール	671	7,800	45
合 計	1,331	12,025	

令和4年度 青少年女性センター 事業報告

●白井市が目指す将来像（第5次総合計画基本構想から）

「ときめきと みどりあふれる 快活都市」

●目指す将来像を実現するために（第5次総合計画後期基本計画から抜粋）

戦略1「若い世代定住プロジェクト」

- ・ゆとりある暮らしを感じるまちづくり
- ・働く場を生み出すまちづくり
- ・子育てしたくなるまちづくり

戦略2「みどり活用プロジェクト」

- ・「かかわれる農」のまちづくり
- ・みどりを育み活かすまちづくり

戦略3「拠点創造プロジェクト」

- ・都市拠点がにぎわうまちづくり
- ・地域拠点でつながる健康なまちづくり
- ・拠点を結ぶまちづくり

これらのプロジェクト（まちづくり）を実現するため、①「つどう」②「まなぶ」③「むすぶ」④「つくる」⑤「さがす」の公民館の代表的な5つの機能を生かした事業展開を行いました。

1. 運営方針

（1）全体の運営方針

- ・「住民一人ひとりの福祉ニーズに対応し、みんなが安心して暮らせるまちづくりの実現」を目指し取り組む。
- ・「誰もがありのままにその人らしく」をコンセプトに、子どもから高齢者までの各年齢層が気軽に参加・交流できる事業の実施。

（2）分野別方針

	運営目標
家庭教育 (1)	①子育て世代が交流し悩みや不安を解消出来る機会をつくる。 ②子育てを通じて男女共同参画の推進を図る。 ③家事や育児に男性参加を促し固定的性別的役割分担意識の解消を進める。
青少年教育 (2)	①市内の小学校を対象に、交流の場を設け仲間づくりを推進する。 ②市内の小学校を対象に、体験を通して学習し興味を促す。 ③中学生以上を対象とした、進路にもつながる体験学習の場を提供する。 ④講座を通して、子どもたちの自主性や主体性を育てる機会の場を提供する。

成人教育 (3)	①起業を目指す女性のための学習の場づくりやスキルアップの機会の場をつくる。 ②各年齢層が横断的に気軽に参加・交流できる学習の場を提供する。 ③悩みや心配ごとを抱える人のストレスを緩和する講座の取組を行う。 ④地域で自分らしく生き生きと働けるようワーク・ライフ・バランスを推進する。 ⑤女性の視点にたった生涯学習の場を提供する。 ⑥地域住民が集い、学ぶコミュニケーションの場を提供する。
団体育成 (4)	①学習成果の発表の場を提供し、団体活動を支援する。 ②対人関係が不得意なため、社会参加が困難な若い世代の女性を対象とした外出の機会や社会参加の機会の場を提供する。

(3) 令和4年度 重点に実施した項目（講座・事業など）

男女共同参画の推進に向けた講座の実施

男女共同参画事業の啓発、周知

地域交流・世代間交流を育む

2. 公民館 講座等実施報告

(1) 学習講座事業

対象	学級・講座名		回数	参加人数
家庭教育 (1)	子育て支援講座 (ハッピースマイル術)	①・②	3 回	10 人
	おやっこチャレンジ体験講座 (おやこチャレンジ)	③	5 回	75 人
	お父さんと子どものDIY講座	②・③	1 回	16 人
青少年教育 (2)	中高生向け体験講座 (記憶力アップ大作戦)	③	回	中止
	中高生向け体験講座 (理系ナビ「光るタンパク質の不思議」)	③	回	中止
	小学生向け体験講座 (きッズトライ！)	①・②・④	1 回	23 人
	小学生向け体験講座 (親子バイオ実験教室)	①・②・④	2 回	43 人
	小学生向け講座 (プログラミングで作って遊ぼう！)	①・②	2 回	10 人

成人教育 (3)	女性支援講座 (ストレスフリーライフ講座)	②・③・④ ・⑤	4 回	54 人
	女性支援講座 (女性のための起業講座)	①・②・④ ・⑤	4 回	7 人
	男女共同参画講座 (コミュニケーション講座)	②・③・④ ・⑤	1 回	8 人
	男女共同参画講座 (防災講座)	②・⑥	1 回	13 人
	男女共同参画講座 (赤ちゃん安眠講座)	④・⑥	1 回	2 人
団体育成 (4)	自助グループの育成 (こころのCafé)	①・②	10 回	2 人

(2) 講座以外に行った事業

- ①イベントの開催
- ②男女共同参画週間における周知・啓発活動
(6月：男女共同参画週間、9月：国際ガールズ・デー、11月：児童虐待防止月間、
女性に対する暴力をなくす運動)
- ③居場所づくり「こころのCafé」の開催
- ④クリスマスコンサートの開催（就労継続支援B型事業所みのりとの合同事業）

(3) 情報の提供

- ・講座・行事（イベント）情報は、広報しろい、社協しろい、HP、Facebookページにて情報提供
- ・各講座チラシを作成し、近隣スーパーや関係機関に配布、掲示。
- ・情報紙「清戸の杜」の発行（年12回）
- ・就労に関する情報提供。

(4) 施設の提供

- ・団体活動の発表や掲示等活動への協力
- ・団体活動の発表や掲示等活動への協力ご意見箱を設置し利用者からの意見や要望を聞き、
改善や意見・要望について回答することで利用しやすい施設の提供
- ・青少年又は女性団体またはグループで行う活動のための施設の提供
- ・青少年の健全育成に携わる者が行う研修、会議などのための施設の提供
- ・青少年の健全育成及び女性の社会活動に資する情報及び資料の提供

(5) 「withコロナ」「afterコロナ」時代に向けた対応

- ・講座の開催時の名簿記入の徹底、換気・消毒の随時徹底をはかる。
- ・利用者への手指消毒のお願いを徹底する。
- ・各部屋の人数制限をするなど、密にならないように徹底する。
- ・出入口の手指の消毒、非接触型体温計の設置。

講座・学級学習プログラム

講座名	子育て支援講座　ハッピースマイル術		
対　象	子育て中の母親		
募集人数	① 1 2 人② 1 2 人 ③ 1 0 人	参加人数	1 0 人
講座・学級開設の課題と目標			
課題			
・少子化、核家族化、地域社会の変貌などが、子育て家庭の孤立化や子育て環境の悪化を招いている。子育ての悩みを相談できる相手や不安やストレスを解消できる場所があまりない。(新型コロナウイルスの影響大)			
目　標			
・母親同士が交流する場を提供し、子育ての孤立化をなくす。			
・子育てに関する知識を高め、前向きで楽しい子育てをしてもらう。			
・悩みや不安を気軽に相談できる場所があることを知ってもらう。			
・子育てで疲れた心と体を癒しリフレッシュしてもらう。			
学習期間	令和4年11月	回数	3回
学習場所	研修室		
予　算	総額：72,000円 うち参加費負担金： ②110×12人 ③1,500円×10人 内訳：講師料72,000円	決　算	総額：24,500円 うち参加費負担金： 1,500×6人 内訳：講師料24,500円 その他事業費　なし
講　師	①親と子のネット利用を考える会代表　中川美奈先生 ② JHA 日本グリーンハートセラピスト協会理事長　宮内典子先生 ③キッズクラフト代表　加藤久美子先生		
参加者等への指導・援助方法			
・新型コロナウイルス感染拡大防止対策をした上での開催 （事前の検温、マスクの着用、手指の消毒など）			
講座・学級開設の成果（課題や目標に対して）			
備考			
保育なし（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）			

学習報告

No	月 日	学習主題・内容・方法等	講 師	学習のねらい
1	11月15日	「子どもを守るための SNS の基礎講座」 ～子供たちの SNS 利用の実態をふまえて～ 参加人数 5人	中川先生	携帯電話等から気軽に繋がることのできる SNS について学び、子どもがどのよう利用しているかを理解する。
2	11月22日	「若さと美しさ、元気を保つ健康法」 ～ママのイライラ解消！自律神経、更年期との上手な付き合い方～ 参加人数 5人	宮内先生	自分のことは後回しになりがちなママ。イライラ解消法や健康維持の方法、更年期について学ぶ。
3	11月29日	「自分だけのクリスマスアルバムを作ろう！」 ～『ほめ写』子どもの写真を飾って子どもの自己肯定感を高めよう！ 参加人数 4人	加藤先生	デジタルで保存する事が多い写真をプリントしてオリジナルアルバムを作成し、子ども自身が大切にされていることを確認できるように部屋に飾ってもらう。

講座・学級学習プログラム

講座名	おやこチャレンジ		
対 象	親子（就学児以上）		
募集人数	38組	参加人数	32組
講座・学級開設の課題と目標	課題 ・子育てをする期間は、仕事や生活に追われ子どもと一緒に何かをする時期は失われがちである。 目標 ・男女共同学参画の視点から、なるべくお父さんが一緒に体験出来る内容を企画し、父親が子育てに参加する機会を作る。また、この体験を通じて親子の絆を深める。		
学習期間	令和4年6月～5年3月	回数	5回
学習場所	会議室・レクリエーションホールLGV 船橋		
予 算	総額：35,000円 内訳 講師料 35,000円 その他事業費	決 算 内訳 講師料 30,000円 その他事業費	総額：30,000円
講 師	1.森嶺雲 2.太田有里沙 3.バランスボールインストラクター 飯田渚 4.飯田智子（非常勤職員） 5.プロゴルファー 忍田 佑介		
参加者等への指導・援助方法 ケガなど無く安全に参加できるよう注意する。 親子で楽しく参加ができ、親子で一緒に過ごすきっかけを提供する。			
講座・学級開設の成果（課題や目標に対して） ・アンケートには、普段忙しく子どもとの時間がなかなか取れないが、おやこ講座で子どもとの楽しい時間を過ごせたという声が多くあった。			
備 考			

学習報告

No	月 日	学習主題・内容・方法等	講師	学習のねらい
1	6月4日	「書写講座」 参加人数8組16人	森先生	身近な文字を練習しながら親子のコミュニケーションを深める。
2	6月25日	「親子ヨガ教室」 参加人数10組22人	太田先生	親子でヨガを行い、コミュニケーションを深める。
3	11月12日	「バランスボール講座」 参加人数8組16人	飯田先生	バランスボールを使って体幹を鍛えたり、運動不足を解消したりしながら、親子で楽しんでもらう。
4	1月28日	「おいしくてカワイイお菓子作り」 参加人数4組11人	飯田先生	親子で協力しながら、お菓子作りに挑戦 コミュニケーションを深める。
5	3月12日	親子でゴルフを体験する 参加人数5組10人	忍田先生	親子でゴルフ体験を通じて、コミュニケーションを深める。

講座・学級学習プログラム

講座名	理系ナビ「光るタンパク質の不思議」				
対象	中学生、高校生				
募集人数	6人	参加人数			
講座・学級開設の課題と目標	講座・学級開設の課題と目標 課題 ・学校の限られた時間数の中では多様な理科実験はできず、子どもたちの理科離れが進んでいる。 目標 ・富岡製糸場と製糸遺産群が世界遺産に登録され、注目されているカイコの最先端研究開発やバイオテクノロジーについて学び、実際に自分で実験することにより理科に興味・関心を持ってもらう。				
学習期間	令和4年8月	回数		1回	
学習場所	調理室				
予算	総額：11,000円 内訳：講師料0円	決算	総額：0円 内訳：講師料0円		
講師	農研機構 生物機能利用研究部門	笹川由紀先生			
参加者等への指導・援助方法 密にならないように、机1台に対して1人の設定					
講座・学級開設の成果（課題や目標に対して）					
備考	講師の体調不良により中止				

講座・学級学習プログラム

講座名	記憶力アップ大作戦！		
対象	中学生、高校生		
募集人数	12人	参加人数	
講座・学級開設の課題と目標	課題 ・夏休みの時期は、今後の進路に向けた勉強方法などに悩む生徒・学生が多いのではないか。 目標 ・記憶のメカニズムや記憶力を高める方法、勉強や日常生活に役立つ記憶法について学ぶ。また、他校の生徒との交流も図る。		
学習期間	令和3年8月15日	回数	1回
学習場所	会議室		
予算	総額：11,000円 内訳 講師料11,000円	決算 講師料	総額：0円 講師料0円
講師	コミュニケーションカウンセラー 高島幸広さん		
参加者等への指導・援助方法 ・講義と演習 ・密にならないように、机1台に対して1人の設定			
講座・学級開設の成果（課題や目標に対して）			
備考	参加希望者が少なく中止		

講座・学級学習プログラム

講 座 名	夏休みチャレンジ大作戦「きつずトライ！」			
対 象	市内在住の小学生			
募集人数	1 2 人	参加人数	2 3 人	
講座・学級開設の課題と目標	課題 ・学校区以外の小学生達の交流は、機会がないと交流が難しい。 ・学校の授業以外にいろいろな体験ができる場が少ない。 目標 ・地域の小学生を対象に仲間づくりや道徳心を養う。 ・交流する機会を与え、体験学習を通じて仲間づくりを広げる。 ・興味を持ったことにチャレンジする行動力を育成する。			
学習期間	令和4年8月8日	回数	1 回	
学習場所	会議室			
予 算	総額： 1 1, 0 0 0 円 内訳： 講師料 1 1, 0 0 0 円	決 算	総額： 内訳： その他事業費	円
講 師	東京ガスネットワーク（株）			
参加者等への指導・援助方法 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をして開催。				
講座・学級開設の成果（課題や目標に対して）				
備 考	講師の他に3名の社員の方にサポートしてもらった			

学習報告

No	月日	事業内容・方法等	講師	学習のねらい
1	8月8日	・生活の中のエネルギーについて学ぶ種類やその性質 ・ガス管を使って万華鏡を作る ・ガス管のリサイクルについて学ぶ	佐藤先生 長嶋さん他 佐藤先生	生活に欠かせないエネルギーについて学ぶ。 ガス管のリサイクルについて学び、そのガス管を使ってオリジナルの万華鏡を作る。

講座・学級学習プログラム

講座名		親子バイオ実験講座	
対象		市内在住の小学生とその保護者（小学4年生以下は保護者同伴）	
募集人数		24組	参加人数 24組
講座・学級開設の課題と目標			
課題			
・小学校の理科の授業において実験の数が減り理科離れが進んでいる。			
目標			
・理科の面白さは学校の授業だけではない。 理科への関心や興味を高める。			
学習期間		令和4年7月27日	回数 2回
学習場所		研修室	
予算	総額：10,000円 ※うち参加者負担金：500円×24組		総額：10,000円 ※うち参加者負担金：500円×24組
	内訳：講師料 10,000円 その他事業費		内訳：講師料 10,000円 その他事業費
講師	NPO法人くらしとバイオプラザ21 常務理事 佐々義子先生		
参加者等への指導・援助方法			
・紙の顕微鏡を組み立てて、タマネギの皮を観察した。助手が1名ずつ付き、講座をスムーズに出来る様に実験器具、調理器具の取り扱いに注意を払った。			
講座・学級開設の成果（課題や目標に対して）			
・講師の他にボランティアさんの協力もあり、スムーズに進められた。 ・小学生のアンケート結果では、全員「面白かった」と回答しており好評だった。 また、保護者の方のアンケートでも「楽しかった」や「良い時間が取れた」などの意見があった。			
備考		ボランティア5名	

学習報告

No	月日	事業内容・方法等	講師	学習のねらい
1	7月27日 午前・午後	① 細胞の顕微鏡標本（プレパラート）をつくる。 ・タマネギの皮に酢酸カーミンを細胞のうえにのせる。 ② 紙の顕微鏡を組み立てる。 ・タマネギの皮を観察する。 ③ 紙の顕微鏡について学ぶ。 ・紙の顕微鏡が発明された	佐々先生	一から紙の顕微鏡を組み立てタマネギの皮の細胞を目で確認する。 紙の顕微鏡が発明された意味を知ってもらう。

講座・学級学習プログラム

講座名	プログラミングで作って遊ぼう！		
対象	小学生（3年生以上）		
募集人数	10人	参加人数	10人
講座・学級開設の課題と目標 課題	・小学校でプログラミング教育が取り入れられる中、小学生がプログラミングに早い段階から触れる機会が必要ではないか。		
目標	・プログラミングへの興味とプログラミングによって動く電子工作のもののづくりの楽しさを経験してもらう。		
学習期間	令和4年8月26日、27日	回数	2回
学習場所	会議室		
予算	総額：43,000円 ※うち参加者負担金 1,000円×10人 内訳 講師料33,000円 その他事業費 10,000円	決算 総額：28,582円 ※うち参加者負担金 1,000円×10人 内訳 講師料14,000円 その他事業費 4,582円	
講師	電子工作研究会今井会長他4名		
参加者等への指導・援助方法	・パソコンの操作、プログラミングの設計図、工作の組み立てとプログラムのアップロードなど本人が行うことを前提に、講師が必要に応じて指導・援助を行う。		
講座・学級開設の成果（課題や目標に対して）	・プログラミングや電子工作の組み立てに興味をもち、自分のペースで取り組むことができた。		
備考	・参加者希望者が32名となり、抽選で10名とした。プログラミング講座へのニーズがかなり高いと思われる。		

学習報告

No	月日	事業内容・方法等	講師	学習のねらい
1	8月26日	音と光、音楽が流れる電子工作に取り組む。 ・マイコンボードやブレッドボード、LDEランプやブザー、抵抗器などの部品を組み立てる。 ・ノートパソコンでプログラムの設計図を見ながらプログラミングを作成。 ・それをマイコンボードにアップロードする。	電子工作研究会	プログラミングへの興味と電子工作のもののづくりの楽しさを経験してもらう。
2	8月27日	・曲名「ぞうさん」をプログラミングし、マイコンボードにアップロード、スピーカーから流す。		

講座・学級学習プログラム

講座名	お父さんと子どものDIY 講座		
対 象	小学生と父または祖父		
募集人数	10組	参加人数	10組
講座・学級開設の課題と目標			
課 題	・お父さんと子どもを対象に親子のふれあいを深める		
目 標	・お父さんと子どもで一つのもを一緒に作ることで、お父さんとの思い出づくりや作る楽しさを体験してもらう。		
学習期間	令和4年11月12日	回数	1回
学習場所	作業室		
予 算	総額：11,000円 ※うち参加者負担金： 500円×20組 内訳 講師料7,000円 その他事業費	決 算 内訳 講師料7,000円 その他事業費	総額：7,000円
講 師	神野工務店 神野 直孝さん		
参加者等への指導・援助方法			
・ケガなど無く安全に参加できるよう注意する。			
講座・学級開設の成果（課題や目標に対して）			
・お父さんや祖父と子どもたちの講座を計画し、親子でふれあう機会を提供する事ができた。			
備 考			

学習報告

No	月日	事業内容・方法等	講師	学習のねらい
1	11月12日 午前の部	プランター作り ～木製のプランターをDIY して作りましょう！～	神野工務店 神野 直孝 さん	ものづくりの楽しさを 知り、親子でもの作り をしながら、親子の コミュニケーション を深める。
2	11月12日 午後の部	プランター作り ～木製のプランターをDIY して作りましょう！～		

講座・学級学習プログラム

講座名	ストレスフリーライフ講座			
対象	一般女性			
募集人数	①15人 ②12人 ③8人 ④12人	参加人数	①14人 ②16人 ③15人 ④9人	
講座・学級開設の課題と目標	課題 毎日の生活の中で何らかのストレスを感じている女性が多い。そのストレスを発散できずにイライラしたり、気分が滅入ったり、体調を崩したりしている。また、新型コロナウイルスによる様々なストレスも抱えている。 目標 日常生活において様々なストレスをかかえている女性のために、気分転換の方法やストレスを解消できる内容を提示し、ストレスのない生活を始めるきっかけ作りをする。			
学習期間	令和4年10月	回数	4回	
学習場所	レクリエーションホール、会議室、研修室			
予算	総額：66,000円 ※うち参加者負担金：1,000円×8人 内訳：講師料6,000円 その他事業費 0円	決算	総額：58,422円 ※うち参加者負担金：1,000円×8人 内訳：講師料58,422円 その他事業費 0円	
講師	運動健康指導士 合同会社 SHINE MORE 代表 根岸健一先生 NPO 法人ちえぶら 更年期トータルケアインストラクター 松永まゆ子先生 アロマインストラクター 河野真理先生 日本成人病予防協会 両角佳子先生			
参加者等への指導・援助方法	・希望の講座に参加しやすいように個別申し込みが出来るようにした。 ・お申込みいただいた講座になるべく参加できるように、人数を増員した。 ・新型コロナウイルス感染症防止対策をとりながら開催した。(検温、マスク着用、消毒)			
講座・学級開設の成果（課題や目標に対して）	コロナの影響でなかなか活動できずストレスを抱えている方々に様々な内容の講座を提供できた。「各先生からパワーをもらい前向きになれた」「軽く汗をかきリフレッシュできた」などの感想があった。			
備考	保育なし（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）			

学習報告

No	月日	事業内容・方法等	講師	学習のねらい
1	10月4日	「QOLを向上させる美姿勢エクササイズ」～生活の質をより良い状態にするためにGOODコンディションを手に入れませんか?～ 参加人数 21人	根岸先生	動的なストレッチと静的なストレッチ、自重エクササイズなどのトレーニングをするのにより外からのストレスに負けない身体を目指す。 女性ホルモンの役割や分泌のメカニズムを学び、やがて迎える更年期に備える
2	10月12日	「女性ホルモンとカラダのトリセツ」～ちえぶら体操付き～ 参加人数 16人	松永先生	自分の好きな香りではヘアトニックを作る。アンチエイジングやストレス軽減、認知症予防に役立つアロマを活用したヘッドトリートメント法を学ぶ。
3	10月20日	「アロマの力でより美しく健康に!」～ハンガリーウォーターで作るヘアトニック&ヘッドマッサージ～ 参加人数 8人 自己負担金 1,000円	河野先生	自分の好きな香りではヘアトニックを作る。アンチエイジングやストレス軽減、認知症予防に役立つアロマを活用したヘッドトリートメント法を学ぶ。
4	10月25日	「抗酸化力アップで若さを保つ食生活」 参加人数 15人	両角先生	若さを保つための、食品や食生活、生活習慣を学ぶ。

講座・学級学習プログラム

講座名	女性のための起業講座		
対象	起業に関心のある女性、起業して間もない女性		
募集人数	12人	参加人数	7人
課題	講座・学級開設の課題と目標 ・再就職をめざす女性の就業が難しい状況にあり、働きたくても働けないと悩んでいる子育て中の女性がいる。 また、子育てと家事の両立が困難 目標 ・いきいきと社会の中で活躍できるよう、子育てや家事との両立を紹介し、自分の出来ることを職に活かしてみる。		
学習期間	令和4年12月6日～12月15日		回数 4回
学習場所	会議室		
予算	総額： 150,000円 内訳 講師料 80,000円	決算 内訳 講師料	総額： 80,000円 内訳 講師料
講師	株式会社PLUS-Y 永田洋子先生		
参加者等への指導・援助方法	・講義、ディスカッション、個人ワーク、質疑応答		
講座・学級開設の成果（課題や目標に対して）	・起業を立ち上げている方も、これからという方も、講師のわかりやすい講義に大変満足されていた。		
備考			

学習報告

No	月日	学習主題・内容・方法等	講師	学習のねらい
1	12月6日	起業してお客様を増やすための基本のマーケティング ・ビジネスを始める際に必要なこと ・ビジネスに欠かせない「マーケティング」とは ・ライバルを理解して自分の強みを磨こう (参加人数 3人)	永田先生	「売れるためのしくみ」である「マーケティング」を学んで、効率的に事業を成長させる。
2	12月20日	お客様に知ってもらい、買ってもらうための告知・宣伝・プロモーション ・お買い物におけるお客様の行動を理解しよう ・プロモーションの種類と特徴 ・あなたのビジネスにあった宣伝・プロモーション方法 (参加人数 5人)	永田先生	お客様を理解したうえで、確実に知ってもらうための実践的なプロモーション方法を学ぶ。
3	12月13日	利益を生み出して長く続けるには？ビジネスの「お金」のハナシ ・利益を生み出すための価格設定について ・事業に必要なお金の調達方法 ・キャッシュポイントとマネタイズを理解しよう (参加人数 5人)	永田先生	長く続けるためのビジネスの「お金」について学ぶ。
4	12月17日	工夫を重ねて売上アップ！お客様から選ばれるためのポイント ・「売上の法則」を理解して施策を考えよう ・お客様が思い描くイメージ作り＝ブランディング ・自分にあったやり方で売上アップを目指す (参加人数 2人)	永田先生	「好き」や「得意」を活かしながら、お客様から選ばれるために必要となるブランディングや販売促進、集客など、売上アップのための方法を考える。

講座・学級学習プログラム

講 座 名	赤ちゃんの睡眠改善～ママもパパも笑顔になれる～			
対 象	市内の乳幼児およびその母親と父親			
募集人数	6 組	参加人数	1 組 2 人	
講座・学級開設の課題と目標 課 題	・乳幼児の夜泣きや寝ぐずりで悩んでいる母親と父親への支援が必要ではないか。また、子育ては母親中心という考えも強く、女性の負担感が強い。			
目 標	・赤ちゃんの夜泣きや寝ぐずりに悩んでいる母親と父親に、赤ちゃんのより良い眠りを引き出すための方法や、男女共同参画の視点からの家族の役割、取り組みについて理解を深めてもらう。			
学習期間	令和4年10月8日	回数	1 回	
学習場所	会議室			
予 算	総額：20,000円 内訳 講師料20,000円 その他事業費 0円	決 算	総額：16,560円 内訳 講師料15,000円 その他事業費 1,560円	
講 師	木津陽子さん（乳幼児睡眠アドバイザー）			
参加者等への指導・援助方法				
・パワーポイントを使用しての講義と、質疑応答				
講座・学級開設の成果（課題や目標に対して）				
・応募者は2組であったが、当日1組は体調不良で欠席となり、1組（母親と乳児）の参加となった。				
・睡眠のリズムについてなど科学的な視点と、講師自身が子育てで夜泣きに悩まされた経験に基づいた分かりやすい内容であった。				
・1組ということもあり、赤ちゃんの様子に寄り添った進め方で母親も無理なく講座に参加されていたと思われる。				
・また、父親が参加できなかったもので、育児や家事など父親への働きかけ方について具体的なアドバイスもあった。				
備 考	・授乳室を用意した。 ・昨年は6組18名の参加があり好評であった。今回は応募者が伸びなかったので開催時期、周知方法など検討したい。			

学習報告

No	月 日	事業内容・方法等	講師	学習のねらい
1	10月2日	講義 ・乳幼児の睡眠のリズム ・睡眠の悩み改善は生活リズムの見直しから 質疑応答 参加人数 1組2人	木津陽子さん	赤ちゃんのより良い眠りを引き出すための方法や、男女共同参画の視点からの家族の役割、取り組みについて理解を深める。

講座・学級学習プログラム

講座名	気持ち伝わる話しかた～お子さんやパートナーと心地よいコミュニケーション、はかりませんか！		
対象	一般		
募集人数	12人	参加人数	8人
講座・学級開設の課題と目標	課題 - コロナ禍以降、家族での過ごし方の見直しやその時間が増えているなか、ちょっとした行き違いでイライラしたり、言いたいことが上手く伝わらなかったりして、家族間でのコミュニケーションの難しさを感じているのではないか。 目標 - 自分を大切にしつつ相手の感情も傷つけない話し方やお互いに心地よいコミュニケーションのあり方について学び、コミュニケーションスキルを高める。また、そのことを通して、女性の自尊感情を高める一助とする。		
学習期間	令和5年3月9日	回数	1回
学習場所	会議室		
予算	総額：64,000円 内訳 講師料64,000円 その他事業費 0円	決算 総額：21,428円 内訳 講師料20,000円 その他事業費 1,428円	
講師	森田栄子さん (NPO 法人アサーティブジャパン認定講師)		
参加者等への指導・援助方法	・講義、演習、質疑応答		
講座・学級開設の成果（課題や目標に対して）	- 講義では、自分も相手も尊重するアサーティブコミュニケーションについて具体的にわかりやすい説明があり、参加者が熱心に聴講していた。 - ペアワークやグループワークの演習では、参加者それぞれが抱えている課題について、積極的な発表や意見の交換があった。 - 体験型の講座であり、参加者は自分の課題を客観視でき、課題解決に向けて取り組みという姿勢が伺えた。 - また、コミュニケーションスキルを高める方法に興味がわき、もっと学びたいという意見もあった。		
備考			

学習報告

No	月日	事業内容・方法等	講師	学習のねらい
1	3月9日	講義・演習（ペアワークとグループワーク） 相手も自分も尊重するアサーティブコミュニケーションを使ったトレーニング	森田栄子さん	自分を大切にしつつ相手の感情も傷つけない話し方やお互いに心地よいコミュニケーションのあり方について学ぶ

講座・学級学習プログラム

講 座 名	体験型防災講座		
対 象	一般		
募集人数	20名	参加人数	13名
講座・学級開設の課題と目標			
課題			
・近年地震やその他災害が多い中、家族や自分自身をどう守ったら良いのか不安に感じる。			
目 標			
・実際に起震車で地震の体験をすることで、まだ大きな地震を体験したことのない子どもや大人も家族等で災害の怖さを知ってもらい、いざという時にどう身を守ったらいいのか話し合ってもらえる機会を作る。			
学習期間	令和5年3月4日	回数	1回
学習場所	会議室		
予 算	総額：20,000円 内訳 講師料20,000円 その他事業費	決 算	総額：20,000円 内訳 講師料20,000円 その他事業費
講 師	日本防災士会 高木 一彦さん 防災コミュニケーションワーク 青木 信夫さん		
参加者等への指導・援助方法			
・起震車体験、パワーポイントを使用しての講義と、質疑応答			
講座・学級開設の成果（課題や目標に対して）			
・起震車で横揺れや縦揺れなど実際に起きた地震の揺れを体験し、どう身を守ればいいのか、まだ大きな地震を体験したことがない子どもも地震の怖さなどを知り親子で考える良い時間となった。			
・学校配布したことにより、申込みのほとんどが家族での申し込みであった。			
備 考			

学習報告

No	月日	事業内容・方法等	講師	学習のねらい
1	3月4日	体験 ・起震車体験 講義・体験 ・色々な防災対策グッズの体験や防災クイズ ・新聞紙スリッパ作り 質疑応答 参加人数 13人	青木 信夫さん 高木 一彦さん	起震車で熊本地震や東日本大震災等の地震の揺れを体験する。今から地震に備え何が必要かなど対策を学ぶ。

事業活動

事業名	男女共同参画週間における周知・啓発活動			
対 象	どなたでも			
参加人数				
事業の課題と目標				
課 題	・男女共同参画週間を機会に、男女共同参画に関わる書籍や資料、掲示物をとおして男女共同の視点や意識、関心をもってもらう。 目 標			
期 間	令和4年6月～令和5年3月	回 数	4 回	
場 所	2階ロビー			
事業参加者への配慮等	・2階ロビーに男女共同参画コーナーを置くことで、サークルで来られた方等にも気軽にご覧いただけるように配慮した。			
事業の成果（課題や目標に対して）	・センターを利用される多くの方に掲示物をご覧いただいた。（見て頂いた方にはシール等を貼ってもらう）			
備 考				

事業報告

No	日 程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	6月20日～ 8月31日	男女共同参画に関わる書籍や資料、掲示物の 展示 (男女共同参画週間)	男女共同参画への啓発及び実施
2	9月27日～ 10月31日	男女共同参画に関わる書籍や資料、掲示物の 展示 (国際ガールズ・デー)	
3	11月1日～ 3月31日	男女共同参画に関わる書籍や資料、掲示物の 展示 (児童虐待防止月間)	
4	11月1日～ 3月31日	男女共同参画に関わる書籍や資料、掲示物の 展示 (女性に対する暴力をなくす運動)	

事業活動

事業名	こころのCafé		
対 象	15歳～35歳の独身女性で人とのコミュニケーションが苦手な人		
参加人数	2 名		
事業の課題と目標			
課 題	・人とのコミュニケーションが苦手で引きこもり気味になっている若い独身女性が増えてきている、10代では登校拒否となり、就職したくても離職を繰り返したり社会になじめない状況にある。また、独身女性が無職と分類されず、家事手伝いとして、分類されているため、重要視されてきていないのが現状。		
目 標	・引きこもりにならないように、外に出る機会をつくり、人とのコミュニケーションを取れるように同じ境遇の女性と自尊心を高めていく。		
期 間	令和4 年 4 月～令和5 年 3 月	回 数	1 0 回
場 所	会議室		
事業参加者への配慮等			
・講座で知った個々の情報は、終了したら人には話さない。ここを安全・安心な場とする。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
・なかなか体調が優れず参加が難しい方にも、メールでのやり取りをするなどして、体調等の確認やいつでも参加しやすいように心がけている。			
備 考			

事業報告

No	日 程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	4月16日	近状報告、相談 (参加人数 1 人)	外出の機会を作り、みんなで話をしながら、共有を深める。
2	5月21日	お菓子作り (参加人数 1 人)	
3	6月25日	近状報告、相談 (参加人数 1 人)	
4	7月30日	近状報告、相談 (参加人数 2 人)	
5	8月27日	近状報告、相談 (参加人数 0 人)	

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	事業のねらい
6	9月17日	近状報告、相談 (参加人数 1 人)	
7	11月19日	近状報告、相談 (参加人数 1 人)	
8	12月24日	近状報告、相談 (参加人数 1 人)	
9	2月18日	近状報告、相談 (参加人数 0 人)	
10	3月18日	近状報告、相談、折り紙 (参加人数 1 人)	

事業活動

事業名	福祉センターフェスティバル		
対 象	どなたでも		
参加人数	4 5 0 名		
事業の課題と目標			
課 題	・活動サークルの発表の成果の場を提供 ・地域福祉団体の福祉活動を知ってもらう		
目 標	・地域住民との交流を深める ・女性起業家同士がともに学び合い、繋がりを作る機会とする ・世代問わず多くの方に参加してもらえイベントにする		
期 間	令和4年9月	回 数	1 回
場 所	福祉センター館内		
事業参加者への配慮等			
・新型コロナウイルス感染症の予防対策を行いながら実施した。 ・出展者には、説明会を開き注意事項を伝えた。 ・3年振りの開催という事もあり、起業家さんのブース料の無料や参加団体を			
今年は、福祉センターを登録館としているサークルのみの参加とした。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
・準備作業を、館内の備品で対応するなど、事務局の方で各場所ごとに配置するなど対応をとることにより、出展者の方々の負担軽減となった。 ・子ども向けのゲームやスタンプラリーなど子どもも楽しめる出し物が好評で、「楽しかった」や「面白かった」などの声が多く聞かれた。 ・新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの開催だったが、大きな混乱なく開催でき良かった。			
備 考			

事業報告

No	日 程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	9月24日	～参加団体発表～ 絵手紙・陶芸・絵画などの展示 サークル活動の発表や演奏や踊りの発表。 参加サークルやキッチンカーによる食べ物等の販売 ～女性起業家による出展～ 体験型ワークショップ 7ブース 物品販売 8ブース 飲食販売 1ブース ◎出店ブース：11ブース ・男女共同参画講演会 「ドイツから考える多様な働き方、生き方」 筑波大学人文社会系教授 田中 洋子さんによる講演。	・福祉センター利用団体の成果発表や体験、販売等で地域住民との交流を深める。 ・女性起業家同士が共に学び合い、繋がりをつくる場。